

香川大学医学部における学生主体での国際交流事業の促進

代表者 岡田 悠輝 (医学部医学科3年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、留学生からの意見としてあがっている、「もう少し日本の学生と関わりたかった。」「日本について学びたかった。」という要望の改善と、日本人学生の積極的な交流プログラムへの参加を促し、語学力の向上と異文化理解を目的としている。留学生側から日本人学生との交流の拡大や日本文化の学習等の強い要望が出されているが、従来は、経費的な制約から大学側が提供する医学教育を主とするプログラム内容を超えた、学生が主体となった活動に制限があった。このプロジェクトによって、「学生が」企画し実行する環境を作り出すことを手助けし、大学の依頼も受けつつ、学生主体の国際交流会を作り出すことが可能となった。

2. 実施期間（実施日）

平成27年4月1日 から 平成28年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、留学生との交流だけではなく、香川大学学生の英語力の向上ならびに国際理解を目標として行うものである。そのために複数の活動を行った。以下具体的な活動について、報告する。

① 夏季ブルネイ留学(International Summer Medical Seminar)に向けた勉強会

・毎週2回の疾患に関するプレゼンテーション会（全て英語で）

実施日）

4/3, 4/6, 4/10, 4/13, 4/17, 4/20, 4/24, 4/27, 5/1, 5/4, 5/8, 5/11, 5/15, 5/18, 5/22, 5/25, 5/29, 6/1, 6/5, 6/8, 6/12, 6/15, 6/19, 6/22, 6/26, 6/29, 7/3, 7/6, 7/13

時間は全てお昼休み12:00～13:00の1時間。事前準備は各自行ってくる。

参加者：平均10～12名（留学生も数回参加した）

・毎週水曜日朝には医学英語の暗記学習会を行った。

実施日）4/8, 4/15, 4/22, 4/29, 5/6, 5/13, 5/20, 5/27, 6/3, 6/10, 6/17, 6/24, 7/1, 7/8

参加者：平均8～9名

留学中のみならず、日本人以外の医療従事者とコミュニケーションをとるには医学英語が

必要となる。まず、基盤となる医学英単語を単語テストなどグループ学習を通して身につけた。また、プレゼンテーションを英語で行うには「慣れ」が必要で、医学をテーマとして半年間重ねてプレゼンテーションを行った。

② チェンマイ大学医学部看護学科への夏季短期留学に向けた準備学習会

実施日) 6月～7月に数回(2～3時間)

英語学習の実施やチェンマイ大学でのプレゼン作成、プレゼン練習。

参加者：留学希望者6名

医学科の学生や過去に留学した看護学科の先輩もフォロー等を行った。

③ ブルネイ・ダルサラーム大学冬季国際学生交流セミナーにおける解剖実習のサポート

解剖実習そのものは大学の授業であるが、留学生が解剖実習に参加しやすいように、また我々がすでに学んだことを教えるために学生主体で支援事業を行った

事前学習会 12月2日、12月3日(日本人のみ)

各自資料を英語で作成し、発表。

事前解剖実習見学 11月18日、11月25日、12月2日(日本人のみ)

実施日(本番)：12月9日、12月16日(ブルネイ大学学生、日本人学生)

参加者：医学科3年生12名を中心として、当日はブルネイ大学の学生10名と医学科・看護学科1年生4名

12月16日の午前中には日本人学生との解剖実習に向けた合同勉強会を実施。日本人学生がブルネイ大学の学生に教えるという形式。(ブルネイ大学学生、日本人学生)



④ 夏季休暇前の特別プレゼン会

海外に関するプレゼンを海外留学経験者が行い、それに関して討論を行った。

実施日) 7月2日(日本人学生8名参加)、7月16日(日本人学生7名参加)

発表者数は各回一人で、留学先は、1回目はケニア等複数国、2回目はインドネシア。

⑤ 日本文化を体験学習してもらう機会

日本の季節にそった文化を体験してもらうために以下のイベントを行った。

- ・お月見（9月23日：8名参加）内留学生1名（ブルネイ）
- ・流しそうめん（9月25日：25名参加）内留学生2名（ブルネイ）

竹を山に取りに行くところから始めて、流しそうめんセットの作製まで行った。この日はブルネイ大学の先生3名も参加して下さった。

- ・沖縄三線体験（10月22日：6名参加）内留学生2名参加（ブルネイ）

私たちが海外へ行ったときにその国の文化体験を自分の力でするのが難しいように、留学生たちも日本人学生なしには日本文化を体験するのは難しい。日本人学生から直接学ぶことで、より理解も深まった。



⑥ 国際交流活動の促進

- ・香川大学医学部祭における展示

日々の活動に興味をもってもらう。2日間で500名以上が展示教室に来た。

（※写真に写っている人の許可が取れていないので、著作権の関係で、写真掲載なし）

- ・留学報告書・日々の活動記録の作成

留学者の報告書と日々の活動記録を作成し、A4サイズのチラシにして新入生向けに配布する。来年度以降の留学希望者の人数を増やす。

- ・アルバム作製

留学中の写真をアルバムにして教室に置いた。来年度以降の留学希望者を増やすため。

⑦ 日本料理について学ぶ

- ・カレーライス（9月25日：25名参加）内留学生2名（ブルネイ）

日本人の好きな食べ物についてのアンケートで毎回上位にくるカレーライスの作り方について学んだ。日本の伝統的料理とは言えないかもしれないが、日本の家庭料理においては知っておいてほしいメニューNo.1である。日本のカレーはお店などではハラルでないため食べることができない。そのこともあって、カレーライスを第一弾の企画とした。

- ・鍋（10月3日：18名参加）内留学生3名（ブルネイ、ミャンマー）

冬の代表的な料理である鍋を第2弾の企画とした。作り方も簡単で、ただ作って食べるだけでは楽しいだけで勉強にならない気がしたので、ブルネイの鍋との違いについて学んだ。

- ・うどん作り（2月24日：20名参加）内留学生3名（ブルネイ）を予定

11月に中野うどん学校にて讃岐うどんの作り方を学んだ。今回は香川大学医学部で学生が中心となって小麦粉から讃岐うどんを作成した。

⑧ 海外料理について学ぶ（9月16日：30名参加）内留学生3名（ブルネイ、ミャンマー）

ならびに外国の方5名（ブルネイ、バングラデシュ）

ブルネイの料理について学んだ。実際にブルネイ料理をブルネイの学生から教えてもらった。

⑨ スポーツを通じた交流

農学部体育館で週一回2～3時間行っている。

課題：人数の確保

→従来のポスター掲示に加えて、12月8日に行われた留学生との意見交換会でチラシを配り募集を行った。

本学の学生との交流はないのかとの意見を教育学部の坂井先生からいただいたので、まずは近くの農学部の留学生を対象に可能な範囲で小規模ながら行っている。毎週継続して行えているので今後も続けていきたい。

実施日：11月以降の毎週金曜日または火曜日

参加者：10名

今までの参加国：ケニア、中国、南スーダン、南アフリカ共和国、ベトナム

⑩ 琴平（11月3日：7名参加）内留学生3名（ブルネイ、ミャンマー）

『金陵の郷』日本酒の作り方について学ぶことができた。香川特産品の日本酒「金陵」の酒蔵跡があり、現在、酒づくりについて学ぶジオラマが置いてある。英語の説明が無かったので日本人学生が英語で日本文化を説明した。また、うどんの作り方も学ぶことができ、ここでも英語の説明が無いので日本人学生が英語で通訳をすることで理解が深まった。歌舞伎の舞台裏の見学もできた。日本の芸能、歌舞伎について学んでもらい、実際に現物を見ることで歌舞伎全体を学ぶことができた。案内役の説明を香川大学の学生が通訳をした。金毘羅宮では、英語でどのように日本の宗教・神道、仏教を伝えたら分かってもらえるのか学ぶことができた。また事前学習も役に立った。



案内役の説明を香川大学の学生が通訳をした。金毘羅宮では、英語でどのように日本の宗教・神道、仏教を伝えたら分かってもらえるのか学ぶことができた。また事前学習も役に立った。

⑪ 小豆島（11月14日：11名参加）内留学生2名（ブルネイ、ミャンマー）

今回の小豆島へ行くことのは二つあった。それは、小豆島の地域産業について学ぶことと小豆島の医療事情を把握することである。事前に、小豆島の医療事情を把握すべく学習を行った。（参加者内5名）小豆島では実際に土庄中央病院を訪れ、お話を伺ったほか、島の方から直接お話を伺うこともできた。小豆島の地域産業については、まず、小豆島ではオリーブやしょうゆ、そうめんをはじめとして小豆島ならではの地域特産品が存在する。次に、日本のオリーブ発祥の地である小豆島



でオリーブの歴史と魅力を学ぶことができた。また、留学生と日本の食文化を学ぶために小豆島の醤油作りについて学ぶことができた。イスラム教徒であるブルネイの学生にとっては醤油の生成の過程でアルコール分が出るために少し気になるようであったが、実際にどの段階でそうなるのかを知ることができた。ハラル用の醤油もあるようで、醤油に対する正しい知識をみにつけた。最後に、小豆島の観光業を支える、日本の美、小豆島の美しい自然を体感してもらうために寒霞渓へと足を運んだ。紅葉のない南国では珍しい光景が広がっており、日本の素晴らしさを感じ取ってもらうことができた。全体を通して日本人学生も英語の壁を感じないで交流ができたことは良かった。初めてこのような国際交流の場に参加した学生も楽しさや英語の重要性を感じたようであった。

⑫ 「地域の小学生とブルネイ大学の医学生、香大生の交流イベント」

実施日) 12月23日

参加者 学生9名、ブルネイ大学学生10名、児童24名、保護者7名の計50名

医学部体育館で実施。近隣の前田小学校、十河小学校、平井小学校、田中小学校と讃岐学園の小学生が参加した。内容は、ドッチボールを通じた交流と日本の昔ながらのおもちゃを使った交流、ブルネイの紹介で、小学生の内から海外に目を向けてもらおうという試みであった。特に最後のブルネイの学生によるプレゼンテーションでは、英語で行ったが写真を多用し、日本人学生が通訳をして説明をすることで小学生や保護者が理解できたと思われる。最後の質問コーナーでは子どもたちから多くの質問が出た。ブルネイの地理に関すること、イスラム教に関する質問が多かった。



⑬ 部活動見学

剣道部 (12月21日: 14名) 内留学生ブルネイ大学10名参加

弓道部 (12月22日: 21名) 内留学生ブルネイ大学10名参加

茶道部 (12月18日: 20名) 内留学生ブルネイ大学10名参加

⑭ 日本文化を体験学習してもらう機会

・習字(3月)ブルネイ大学ディスカバリーイヤーの学生2名とチェンマイの学生3名対象

⑮ 仏生山温泉 (2月26日: 8名) 内留学生3名

スポーツ交流を行っている農学部の留学生と訪問した。香川県の温泉である仏生山温泉へ行き、日本文化について学んだ。アフリカやブルネイでは公共の場で裸になりお風呂に入るといった文化がない。特に、イスラム教では男性でも体を見せ合うことを文化とはしていないそうである。今回は、日本文化を実際に体験してもらう企画とした。

全体的な活動を通して、留学生が例年と比べて日本の学生と交わることができたうえ、日本についてより深い学びをすることができた。また、日本人学生に積極的な国際交流プログラムへの参加を促すこともできた。さらには、語学力の向上もみられ、異文化に対する理解も可能となった。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域社会・香川大学に以下のような影響を与えたと考えられる。

○地域社会について

- ・ 留学生が日本や香川の文化を知ることができた
- ・ 香川大学の学生が香川の文化を知ることができただけでなく、日本文化について見なおす機会となった。また、留学生の視点からどのように日本を認識しているのか知ることができた。
- ・ 医学部周辺の子どもたち（前田小学校、平木小学校、十河小学校、讃岐学園）にも参加できる環境をつくることで、早い時期から子どもたちの外国に対する興味を持たせることができた。

○大学について

まず、短期的な目標として掲げた内達成したものが、

- ・ 提携校との交流事業の支援ができたこと。
- ・ 双方の大学で、短期交換留学の希望者が増えたことである。

また、将来的にこの事業を続けることで

- ・ 海外・香川県内での香川大学の知名度が上がる
- ・ 提携校内で香川大学の評判がさらによくなることが考えられる。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

国際交流という事で、「友達」が増えることに加え、それ以上の成果があった。

まず、香川大学にしながら英語を学べたこと、そして他の国の人柄や文化について学ぶことができたということである。海外に実際に足を運ぶことに比べたら理解できるものは当然少ないだろうが、香川大学で少しでも国際理解ができれば、将来実際に行ったときに文化の違いによる壁は低いだろうし、受け入れやすい。そして、海外へ、その国へ行ってみたいという思いを各学生にもってもらうこともできた。近年は、海外留学や世界に目を向けることが大切といわれている一方で、実際に外国へ留学する学生は香川大学医学部では少なくなっている。カリキュラムの変更等もあり、勉学が忙しく休み期

間も留学が厳しい状況だ。そういった中でも、行ってみようかな？と思ってもらったことができたのは大きな成果だと思った。また、ワークショップや普段の会話から他国の医学生の医学に対する姿勢を学ぶこともできた。香川大学医学部では、当然香川大学医学部で学べることしか学べない。それが当たり前に思ってしまう。海外の他の医学生がどの程度学んで、どういう学び方をしているのか知ることによって自分の医学に対するモチベーションも上がるし、マンネリ化した授業や学生生活を見直して、初心に戻り、新しい目標を持つこともできた。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

幸町キャンパスの留学生と違って、医学部の留学生は通年来ているわけではない。留学生が香川大学医学部に來る日程が例年と大きくずれたり、大学側のプログラムの関係等で、学生側で予定していたものが実施できないもの、内容を変更せざるを得ないものがいくつもあった。そういった点を踏まえて、来年度以降は、予算の計画を立てたい。初年度という事もあり、よくわからないままであったので、後輩に引き継いでより良い国際交流事業を行っていけるようにしたらと強く思った。

また、「国際交流会」という団体（医学部のサークル）で夢プロに応募させていただいたが、参加者の募集が国際交流会のメンバーが7割くらいになってしまったので広く呼び掛けることも次年度以降できたらと思う。そういう点を踏まえると、国際交流会としてというよりは医学部全体の国際交流を担うような新しい団体として立ち上げた方が、サークルのしがらみがなくできるのではないかと感じた。

昨年度までは何年間も学生が中心というよりは、大学に依頼されて国際交流を行うというスタイルであったが、今年度は学生が企画し実行するといったように、「学生が主体」という香川大学の掲げるスタイルを達成できた。特に、夏から秋にかけて医学部に來た学生たちには大学側のフォローがほとんどなく、私たち学生がいなければ何も交流がないまま帰国を迎えた。大きな成果をあげたと思う。

来年度も、医学部における国際交流を先導しつつ、さらに今年以上に近隣の農学部の留学生とも交流を深めるような企画イベントをしていきたい。

7. 実施メンバー（参加者）

代表者	岡田 悠輝（医学部3年）	
構成員	小野 正詩（医学部6年）	高橋 桜子（医学部4年）
	田村 瞳（医学部4年）	佐野 美夕（医学部3年）
	都野森紗希（医学部4年）	中谷 元（医学部4年）
	田中 晴菜（医学部3年）	中村 祐貴（医学部3年）
	堀井 雅（医学部3年）	難波 加奈（医学部3年）
	岡崎 恵理（医学部3年）	大野 卓也（医学部3年）

酒井 善紀 (医学部 3 年)
新谷 あん (医学部 3 年)
仙波 利奈 (医学部 3 年)
三浦ありさ (医学部 3 年)
三野 光志 (医学部 3 年)
松本 感 (医学部 3 年)
谷本 優海 (医学部 2 年)
中條加奈子 (医学部 2 年)
宮本貴和子 (医学部 2 年)
近藤 有希 (医学部 2 年)
岡本 諭賢 (医学部 2 年)
村山 晃三 (医学部 2 年)
真田 健吾 (医学部 2 年)
郷田 真由 (医学部 1 年)
福長 美月 (医学部 1 年)
米倉 成美 (医学部 1 年)
舟木 大地 (医学部 1 年)
長江 桃夏 (医学部 1 年)
廣西 紋 (医学部 1 年)
山内彩希帆 (医学部 1 年)
山内 豊 (医学部 1 年)
八木真由子 (医学部 1 年)
玉野上裕明 (医学部 1 年)

古賀 友亮 (医学部 3 年)
平 遥 (医学部 2 年)
續木 志穂 (医学部 3 年)
原田 紡 (医学部 3 年)
苅田 咲子 (医学部 3 年)
内山 紗也 (医学部 3 年)
竹安永花里 (医学部 2 年)
長谷川愛子 (医学部 2 年)
織田 佳苗 (医学部 2 年)
小坂 麻耶 (医学部 2 年)
鈴木 陸 (医学部 2 年)
麻生信太郎 (医学部 2 年)
片山 大奨 (医学部 1 年)
大口 剛史 (医学部 1 年)
木村麻友紀 (医学部 1 年)
亀井 美里 (医学部 1 年)
冨谷 紘加 (医学部 1 年)
木村 佳代 (医学部 1 年)
辻本 虹歩 (医学部 1 年)
水谷 成美 (医学部 1 年)
前 拳太郎 (医学部 1 年)
香川 涼子 (医学部 1 年)
他、留学生多数